

たばこの不始末で出火 文政12年3月21日神田大火

江戸の大火の記録は多い。徳川時代300年間に873回の火災があって、延長2kmにおよぶ大火はそのうち110回もあったといわれる（本誌102号「都市と大火」木村拓郎著）。文政12年(1929)の神田大火もこれらの一つである。「江戸火災史」小鯖英一著によると、焼失区域は東西20余町、南北1里余で、焼失軒数、死者はつぎのようになっている。

大名屋敷73	} 計369,512軒 焼死者2,801人
旗本屋敷130	
御目見以上医師30	
町医師379	
町家表通り113,835	
同裏屋255,065	

巳の刻（午前10時ごろ）すぎ、神田佐久間町2丁目の河岸にある材木小屋より出火した火は、神田川を飛び、東神田武家、町屋一円に焼け広がった。東は両国橋浜町辺りから永代橋手前まで、西は須田町通り東側より今川橋向本銀町、本町河岸、御堀端通、数寄屋橋外まで、南は新橋塩留まで焼け、翌22日朝鎮火した。当日は、戌亥（西北）の風が激しく、砂石を飛ばす猛風だったという。

出火原因はたばこということになっている。神田佐久間町1丁目伊兵衛店の友吉という召使いが材木置場でたばこを喫い、その吸いがらを捨てたため、カンナ屑に着火し猛風に吹かれて屋根に飛び火したのだという。

江戸時代のことだから、どのような原因調査をしたのかわからないが、今なら果たして友吉のたばこが出火原因ということになったかどうか？

「視聴草」には、友吉の処分について次のように書かれている。

「此者儀火之元之儀ハ巖敷申渡も有之、殊に去ル丑年三月二十一日ハ格別風烈ニ付、別て入念可申旨主人よりも申付候上ハ大切ニ可心付所、無其儀、家前河岸材木之間ニ差置候 鶯口を取ニ罷越候節、烟草之吹殻をはたき置候故、有合候大鋸屑等ハ火移り、河岸続飼葉屋へ飛散、同所より及出火、翌曉八ツ半時過鎮火致し、凡長一里余、幅平均拾五丁程、并佃島人足寄場、且御入用御普請場所数ヶ所焼失致候。殊ニ多人数焼死人出来致候仕儀ニ相成、畢竟火之元僿末に致し候故之儀、不届ニ付 江戸弘申付候」

※瓦版提供 早稲田大学演劇博物館



文政二年の五月廿二日

朝臣阿保より外神田

へつりて

よりお水折も北野の

御もとより下

所りみ

大の

聖を

その

道

深町

東

横山

廣小

中大

橋

新

四

御

又

三

旗

小

近

海

は

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

